

自己評価報告書

平成23年 3月31日現在

機関番号：32604

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20720059

研究課題名 (和文) 新聞・雑誌メディアにおけるジェンダー編成と小説

——大正・昭和の言語態分析

研究課題名 (英文) Textual Analyses of the Arrangement of Gender in Print Media and Novels of the Taisho and Showa Eras

研究代表者

内藤 千珠子 (NAITO CHIZUKO)

大妻女子大学・文学部・講師

研究者番号：20433708

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近・現代文学、ジェンダー、メディア

1. 研究計画の概要

新聞・雑誌メディアにおけるジェンダー編成と、小説の言語におけるジェンダーの構造との相関に焦点を当て、大正・昭和の言説構造を分析・考察しようとするのが本研究の目的である。

近代日本が国民国家として成立し、戦争や植民地主義の論理が定着していく過程で生じた言説の構造について、ジェンダー編成に注目しつつ、言語態分析の方法論をとって研究を進める。

2. 研究の進捗状況

大妻女子大学図書館、国立国会図書館、国文学研究資料館や、国内外の研究施設・図書館を利用し、大正・昭和期の一次資料を収集する作業を継続してきた。また、マイクロフィルムやマイクロフィッシュ、原紙、縮刷版等をコピーし、見出しによって整理しながらデータベース化する作業を行ってきた。収集した資料から大まかな見取り図を構成し、小説の言語と比較することによって、言説論理の特徴について検証しつつある。

また、韓国やヨーロッパ、アメリカ、カナダ等の研究者との交流を通じて、学術的な共同作業を進め、新たな観点を見いだすことにもなった。

具体的に明らかとなったのは、以下の三点である。

- (1) 大正・昭和期の言説論理の特徴については、植民地主義や帝国主義の論理が小説内の物語と同期する際、「引用」と「逆転」という観点から論理化することが可能である点を明らかにした。
- (2) とりわけ1920年代～1930年

代の問題系については、韓国の研究者との研究交流をするなかで、帝国と植民地の非対称性について、新たな論点を見いだすこととなった。研究者の立ち位置について、また、論理を受容する視点をどこに置くのかといった観点についての考察が必要となることが確認できた。

- (3) 大正・昭和期のジェンダー構造を小説と対照していくなかで、現代小説に影響が及ぶ物語的な力学、という、本研究課題の延長で考察しうる論点が浮上し、現在、ある程度まで検証しつつある。ジェンダー構造の負の側面が、物語と結合して回帰する際の論理について、小説のスタイルと関連させながら考察している過程である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) それぞれの年度ごとに具体的な達成目標を定め、収集すべき資料の種類や年代を区分しながら作業してきたので、年度末までに成果を論文等にまとめる作業を効率よく実施できたから。

4. 今後の研究の推進方策

研究はほぼ順調に進んでいるので、当初の計画通り遂行していく予定である。

ただし、2の(2)(3)で挙げたように、本研究遂行の過程で、研究課題を発展的に検証しうる新たな論点を見いだすこととなったので、植民地との非対称性、あるいは現代小説との相関性を念頭におきながら、研究を継続していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① 内藤千珠子「ヒロインを降りる——『エロス+虐殺』と物語の暴力」『大妻国文』査読無し、41巻、2010年、111-128頁。
- ② 内藤千珠子「水に沈む錦魚——林芙美子『牡蠣』と負の移動」『文学』査読無し、11巻2号、2010年、155-169頁。
- ③ 内藤千珠子「混血するナオミの不潔な肌——『痴人の愛』の背理」『大妻国文』査読無し、40号、2009年、131-149頁。

〔学会発表〕(計2件)

- ④ 内藤千珠子「物語の殺意——天皇制が織りなすジェンダー表象」社会文学会、2010年6月19日、フェリス女学院大学。

〔図書〕(計2件)

- ⑤ 内藤千珠子、みすず書房、『小説の恋愛感触』2010年、総ページ数217頁。